

医学会108学会へのアジアとの国際交流に関するアンケート調査報告書

平成23年3月11日

METIS
アジアとの連携・交流 戦略会議

目次

(1) 調査対象先と調査方法等	1
(2) 回答結果	1
(3) 調査結果の概要	1
1. アジア諸国の学会との国際交流についての考え方について	1
①国際交流の取り組みの現状について	1
②連携・交流の重要性の認識について	2
③連携・交流の進め方について	3
④連携・交流の課題について	3
2. アジアの国々との国際交流を行っているか、若しくは行う予定について	4
①定期的に行っている。	4
②不定期であるが行っている。	4
③行っていない。	4
④将来、行う予定がある。	4
3. 国際交流の活動は、どのようなことを行っていますか。(複数回答)	5
①学会への講演者の派遣や招聘	5
②学会や研究会の設立	5
③研究者などの人材交流	5
④シンポジウム開催などの相互開催	6
⑤学会誌への投稿や入稿	6
⑥共同研究や共同治験	6
⑦診断や治療等の技術支援	7
⑧その他	7
4. アジア諸国との共同治験を支援する制度や仕組みはありますか。	7
5. 共同研究を推進する上で考えられる学側の課題について	8
6. アジアとの国際交流で取り上げる研究テーマ、若しくは興味のあるテーマについて	8
7. 産学連携によってアジアとの国際交流を推進するとした場合、国内企業に期待する活動について	9
8. 我が国の医療機器をアジアに展開推進する上での課題について	9
9. 医療機器に関する研究開発にあたって、産業界に対する要望や意見について	10
10. 日本医療機器産業連合会(医機連)やMETISについて	10

医学会108学会へのアジアとの国際交流に関するアンケート調査報告

ME T I Sのアジアとの連携交流戦略会議では、我が国の医療機器のアジア市場への展開を促進する上での課題解決の探索と掌握を目的として、医学会108学会（日本医学会 所属学会）におけるアジア諸国の学会との国際交流の活動状況や課題と産業界への要望等に関するアンケート調査（調査期間：平成22年9月6日～10月22日）を実施した。

アンケート調査結果の概要を以下の通りまとめましたので報告する。

（1）調査対象先と調査方法等

調査対象先：日本医学会に加盟している108学会

調査期間：平成22年9月6日～10月22日

調査方法：理事長（学会長）宛にアンケート調査用紙を送付し回答をお願いした。

調査の内容は、以下の10項目についてお尋ねした。

1. アジア諸国の学会との国際交流の考え方について
2. アジアの国々との国際交流を行っているか、若しくは行う予定について
3. 国際交流の活動内容について
4. アジア諸国との共同研究を支援する制度や仕組みについて
5. 共同研究を推進する上で考えられる学側の課題について
6. アジアとの国際交流研究テーマ、若しくは興味のあるテーマについて
7. 産学連携でアジアとの国際交流を推進する際、国内企業に期待する活動について
8. 我国の医療機器をアジアに展開推進する上での課題について
9. 医療機器の研究開発で、産業界に対する要望や意見について
10. 日本医療機器産業連合会やME T I Sについて

（2）回答結果

回答学会：76学会（回答率70.3%）

有効回答学会：71学会（回答率65.7%）

回答者の内訳：理事長（学会長）21学会（29.6%）、理事27学会（38.0%）

幹事4学会（5.6%）、事務局18学会（25.3%）、その他7学会（9.9%）

（3）調査結果の概要

1. アジア諸国の学会との国際交流についての考え方について

① 国際交流の取り組みの現状について

多くの学会から、アジアの関係学会との学会開催や後援、セミナーの開催、アジア地域への教育と普及活動、留学生（基礎研究者・臨床医）・医学部学生の受け入れや研究支援等が挙げられている。

また、アジアとの国際協力に関する委員会を学会の内に設けて活動を行っている学会や、アジア各国の医療事情を調査して具体的な課題を検討している学会もある。

- ・アジア関連学会を組織し毎年持ち廻りで学術大会を開催
- ・アジア諸国の学会と合同のセミナー・カンファレンスなどを開催し交流を図っている
- ・国際協力や国際交流などを通して研究や人的交流
- ・学会員の現地研究者による人的交流
- ・アジアの関連学会に参加し、研究発表、人的交流を実施
- ・留学生・医学生を受け入れ研究支援、帰国後の定期的なサポートを実施
- ・学会内にアジアとの国際協力に関する委員会を設置し交流を推進
- ・学会・研究会への招待
- ・学会機関誌へのアジアからの投稿を支援
- ・アジア交流基金を設置して、アジアの関連学会の運営の援助活動
- ・アジア各国の医療事情を調査して具体的な課題を検討

② 連携・交流の重要性の認識について

地勢学的にアジアへの関係の深化は必須とされ、アジア人は共通する遺伝子背景を持ち、疾病構造も似ていることから、共有する医学的問題が多いと認識している。

特に、肝細胞や胃がんなどは、アジア人に頻度が多く、その治療開発にはアジア諸国との連携が必須であると回答している。

医療に関するエビデンスやガイドラインのもとになる臨床研究はほとんどが欧米発信であることから、欧米に負けないアジア発信をするには、アジア諸国と密接に連携して研究を行う体制を作る必要がある、また、韓国や中国などアジア諸国の医療進歩は目覚しく、ぼんやりしていると日本はアジアの医療後進国になるとの危機意識を持っていると回答する学会もあった。

- ・グローバル化のなか、アジアの中の日本としてアジアへの関係深化は必須
- ・アジア特有の医療的、医学的問題もあるなか、アジア諸国との直接的な交流が必要
- ・人種・民族的に疾病構造も共通するところがあり（特に肝細胞や胃がんなどは、アジア人に頻度が多い）、共有する医学的問題が多い。
- ・アジア人に頻度が多い疾患の治療開発には、アジア諸国との連携が必要
- ・医療のグローバル化・分業化のなか、日本の学会主導での途上国への教育指導などは国際分担領域と認識
- ・戦後我々がアメリカに受けた恩恵を、アジア諸国に、支援する形で還元すべき。
- ・アジアにおける医学・医療先進国である日本は、これまで培ってきた知識、ノウハウ等を用いてアジア諸国における疾病対策推進のために助力するべき。
- ・アジアの医療機関のトップクラスはレベルが高くなっており、市場としても学問交流においても有望
- ・欧米中心の研究発信からアジア中心の発信とするため、アジア諸国と密接に連携して研究を行う体制が必要
- ・韓国や中国などアジア諸国の医療進歩は目覚ましい。ぼんやりしていると日本はアジアの医療後進国になる。

③ 連携・交流の進め方について

多くの学会がアジア諸国との国際交流を推進している。学術発展および医療活動普及のため、アジアの中での国際交流が重要であり、積極的に推進すべきとの認識が強い学会が多い。

- ・加盟国際学会を基盤にしつつ今後も交流をはかるが、国際学会とは別に、日本が主体的にアジアの近隣諸国との交流を促進する必要がある。
- ・共同研究、人材交流、学会における講演者の派遣や招聘等の活動を今後も推進する。
- ・今後も日中韓に限らず、広くアジア諸国との学術交流を推進する。
- ・今後も活動を継続することにより、アジア地域のさらなる発展に寄与するとともに、アジア全体での活動を世界に発信する。
- ・さらに前向きに取り組むべく、アジア各国の医療事情を調査して具体的な課題を検討している。
- ・学会発表（口演、ポスター）、シンポジウムへの招待を今後とも積極的に行う。
- ・次回、学術集会では、アジアを中心としたシンポジウムを予定する。
- ・アジアの研究者、行政当局との連携を今後も継続し発展を図りたい。
- ・アジアの関連学会が立ち上がるような活動の支援を考えている。

④ 連携・交流の課題について

恒常的に交流するための資金が無い。資金不足であるが、相手国の支援を通じてのレベルアップ、そして日本が主体的にアジアの近隣諸国との交流を促進する必要があると回答した学会が多い。また若い人達の留学意欲が低下し、国内だけで満足しており、ハングリー精神に乏しく海外志向の意欲の低下を挙げる回答もあった。

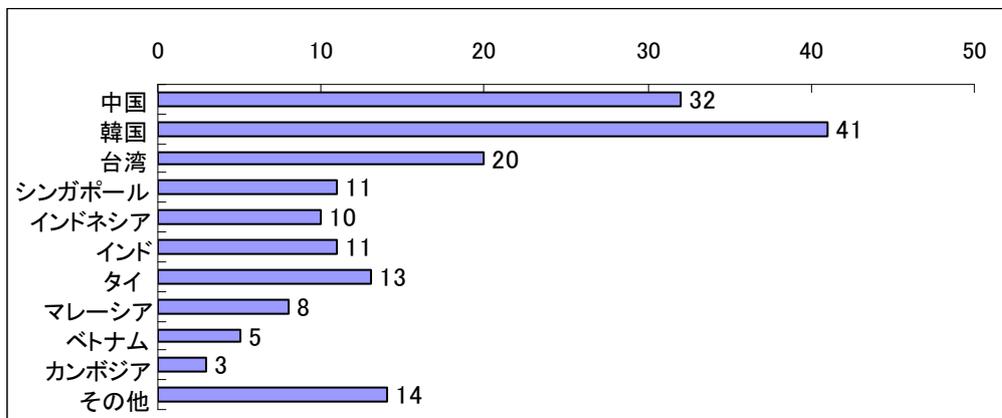
- ・恒常的に交流するための資金が乏しい。
- ・学会レベルの交流も重要だが、日本としても知的援助を通じ相手国のレベルアップの支援も必要。
- ・日本が主体的にアジアの近隣諸国との交流を促進する必要がある。
- ・学会は広域の問題に対応しており、交流するうえで具体的問題を共有することが課題である。
- ・現在アジア諸国に、交流対象となる専門領域の正式な学会が設立されていない
- ・外国の学会との交流を図る意欲が、医学界に限らず若い人達に総体的に低下している。学術的な討論ができるような教育が必要。

2. アジアの国々との国際交流を行っているか、若しくは行う予定について（複数回答）

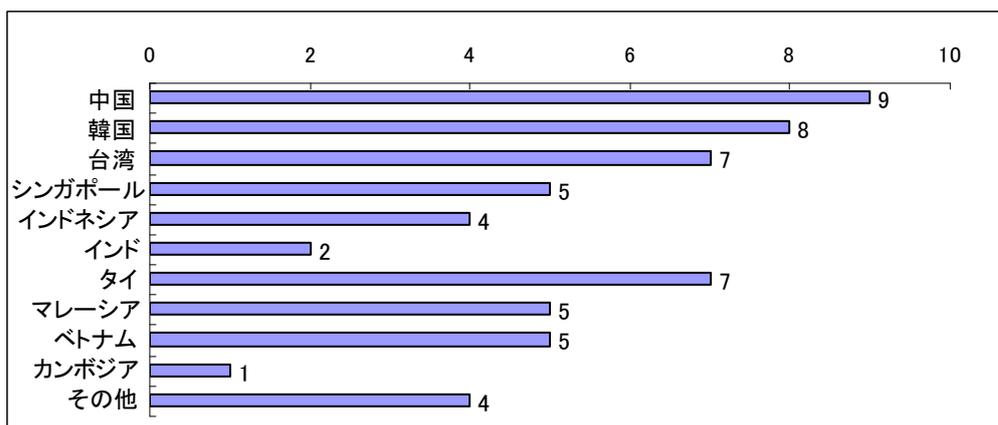
84%の学会が定期的、あるいは不定期でアジアの諸国との国際交流を行っている。

国際交流の相手国先の上位3か国は韓国、中国、台湾である。

【①定期的に行っている。回答：50学会、168件】

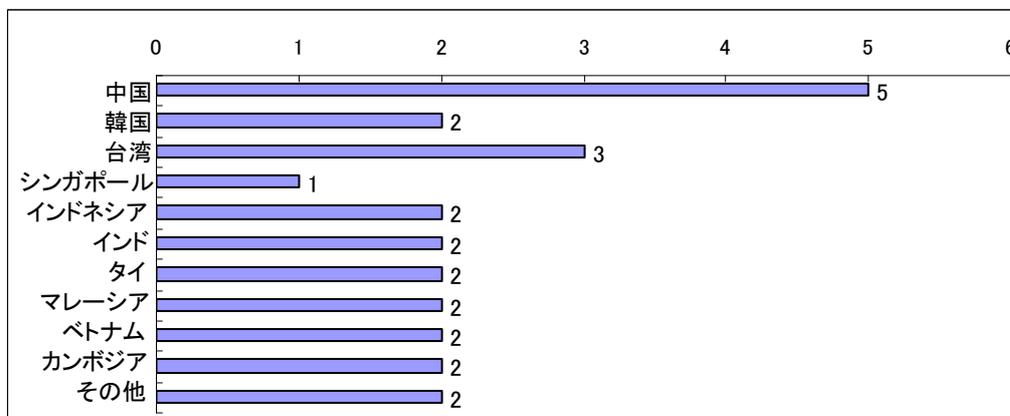


【②不定期であるが行っている。回答：18学会、57件】



【③行っていない。回答：11学会】

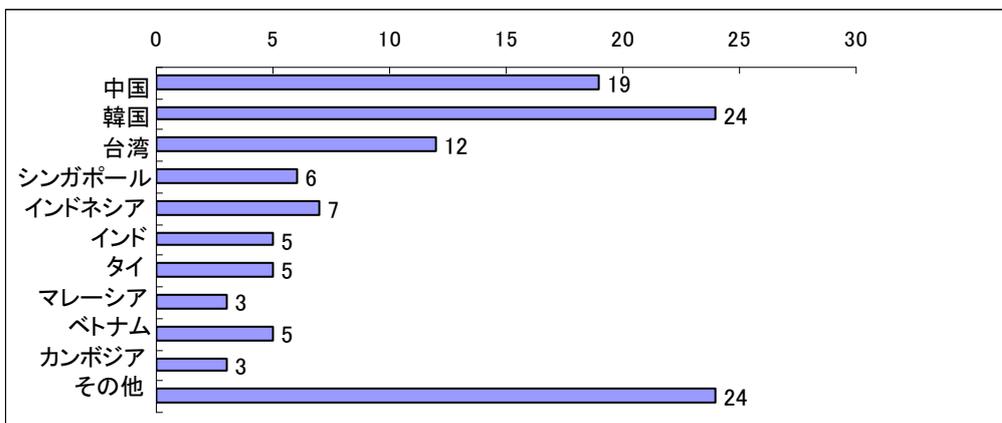
【④将来、行う予定がある。回答：6学会、25件】



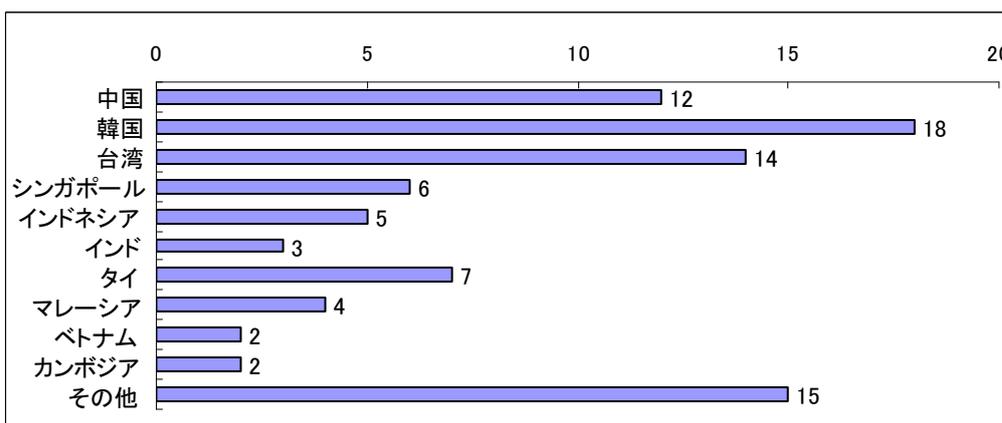
3. 国際交流の活動は、どのようなことを行っていますか。(複数回答)

学会への講演者の派遣や招聘、学会や研究会の設立、研究者などの人材交流、シンポジウムなどの相互の開催の交流、学会誌への投稿や入稿が主な活動として挙げられている。一方で、共同研究や共同治験と診断や治療等の技術支援の活動は、まだ少ない状況である。

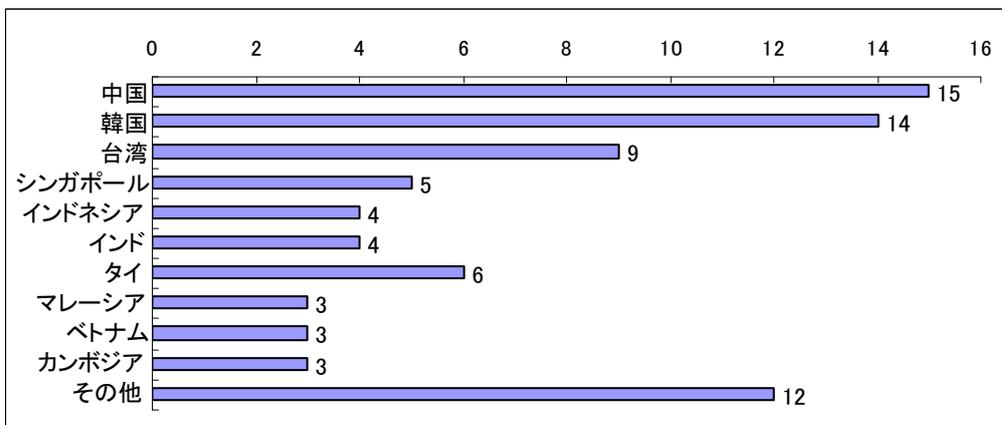
【①学会への講演者の派遣や招聘 回答：36学会、113件】



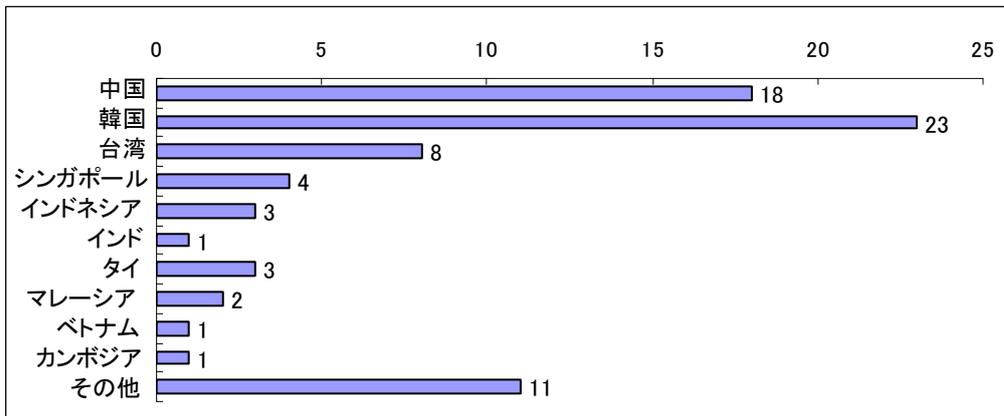
【②学会や研究会の設立 回答：29学会、88件】



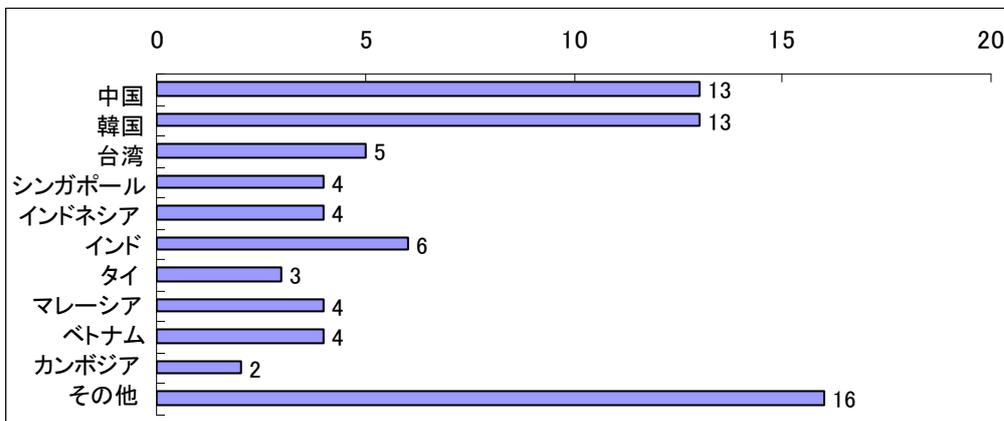
【③研究者などの人材交流 回答26学会、78件】



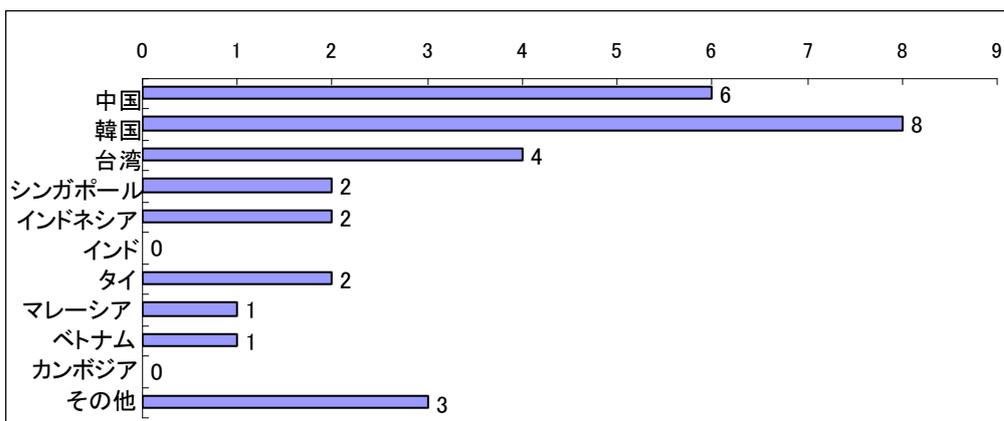
【④シンポジウム開催などの相互開催 回答32学会、75件】



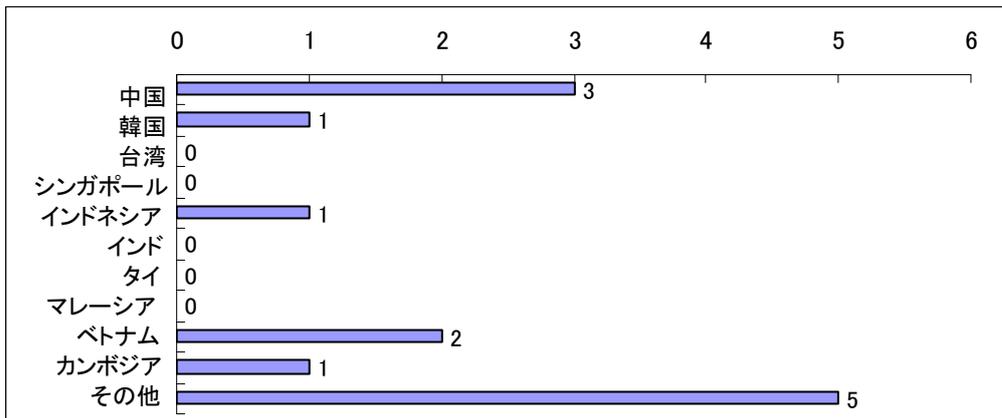
【⑤学会誌への投稿や入稿 回答28学会、74件】



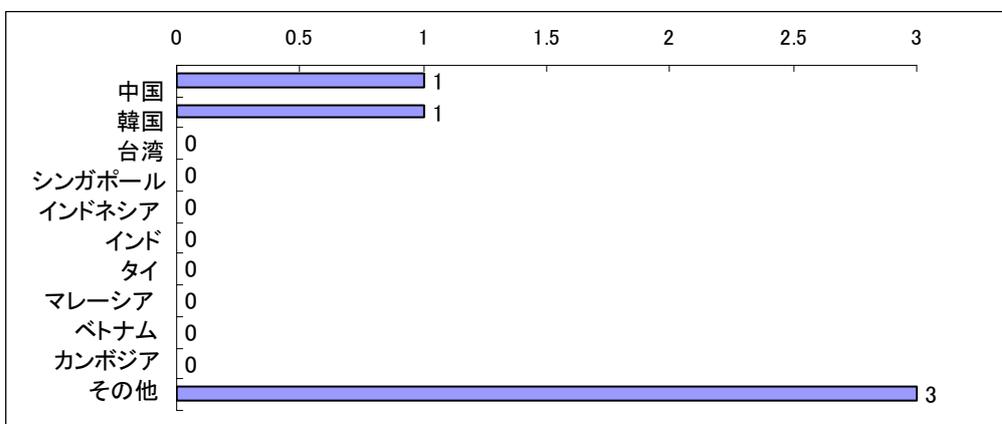
【⑥共同研究や共同治験 回答14学会、29件】



【⑦診断や治療等の技術支援 回答8学会、13件】

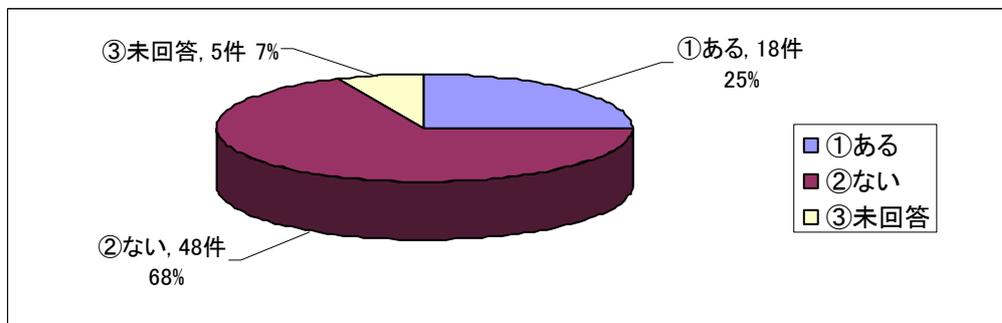


【⑧その他 回答4学会、5件】



4. アジア諸国との共同治験を支援する制度や仕組みはありますか。

共同治験を支援する制度や仕組みがある回答した学会は18学会で、多くの学会では設けられていない状況である。

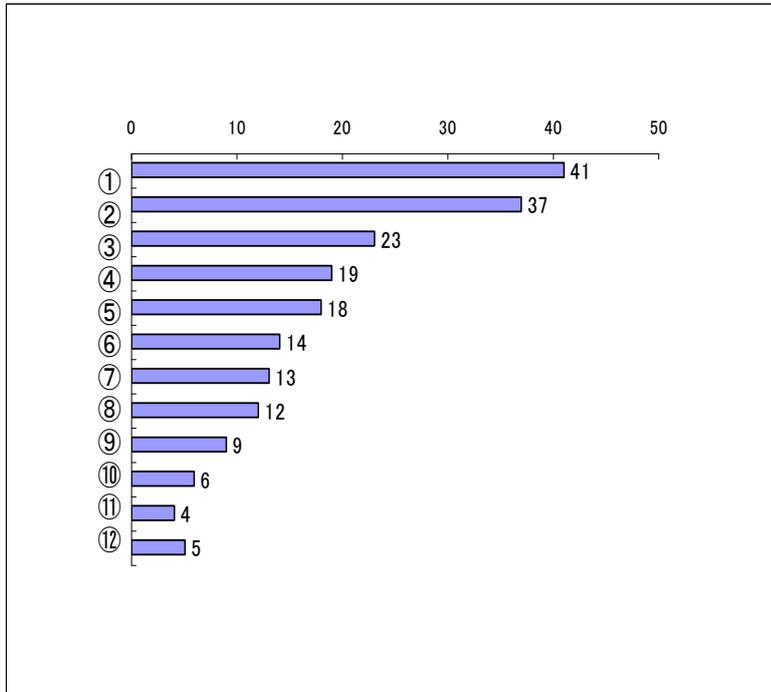


5. 共同研究を推進する上で考えられる学側の課題について（複数回答）

研究費用の確保が出来ないという資金不足の問題、行政の支援が不足、研究環境の格差言語の壁、アジア標準の規制がない等の課題が挙げられている。

【回答59学会、201件】

	回答数
①研究費用の確保ができない。	41
②行政の研究開発費用の支援や対応の支援が不十分である。	37
③研究環境の格差が難しい。	23
④言語の問題がある。	19
⑤規制ルールのアジア標準がない。	18
⑥人材が育成されていない。	14
⑦行政や研究者等との交流パイプがない。	13
⑧欧米が主流で、アジアへのモチベーションが低い	12
⑨特許などの知財の確保が難しい。	9
⑩統治国家としての不安や民族感情の壁がある。	6
⑪その他	4
⑫特に無い。	5

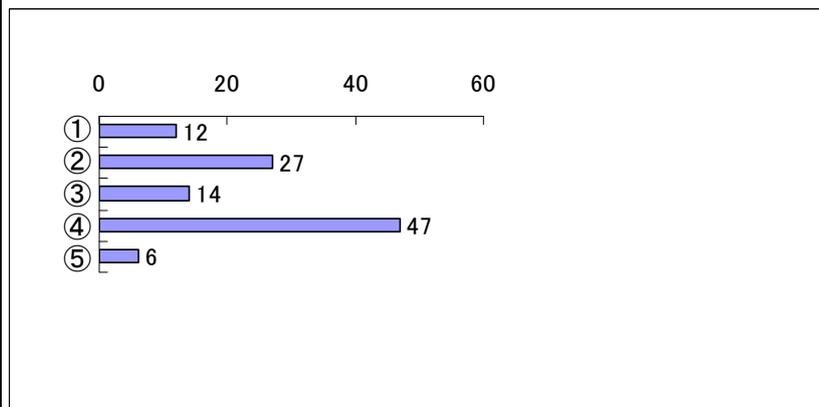


6. アジアとの国際交流で取り上げる研究テーマ、若しくは興味のあるテーマについて（複数回答）

感染症対策（鳥インフルエンザなど）や人種、遺伝子、疾病構造、疾病効果などの研究分野等が挙げられている。

【回答58学会、106件】

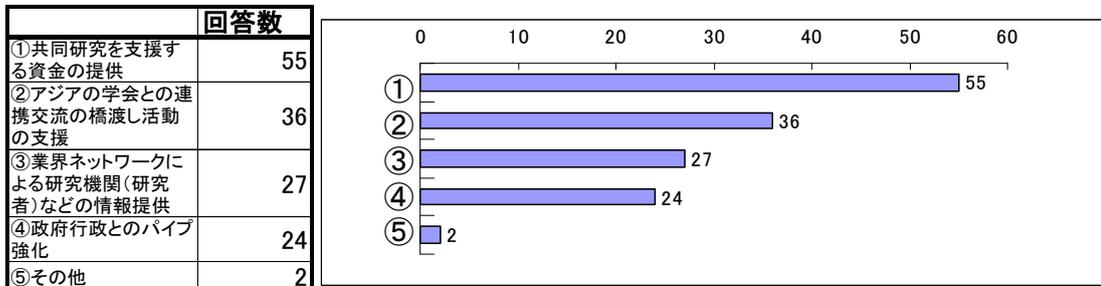
	回答数
①感染症対策（鳥インフルエンザなど）についての研究分野	12
②人種、遺伝子、疾病構造、疾病効果などを考慮した医学研究分野	27
③高齢に伴う疾病（がん、頭・心臓・糖尿・目の病気など）のアジア標準化に向けた研究分野	14
④貴学会の目的としている研究分野	47
⑤漢方や鍼灸など東洋医学を応用した研究分野	6



7. 産学連携によってアジアとの国際交流を推進するとした場合、国内企業に期待する活動について（複数回答）

国内企業には、共同研究を支援する資金の提供、アジアの学会との連携交流の橋渡し支援、研究機関や研究者の情報提供、政府行政とのパイプ強化等が期待されている。

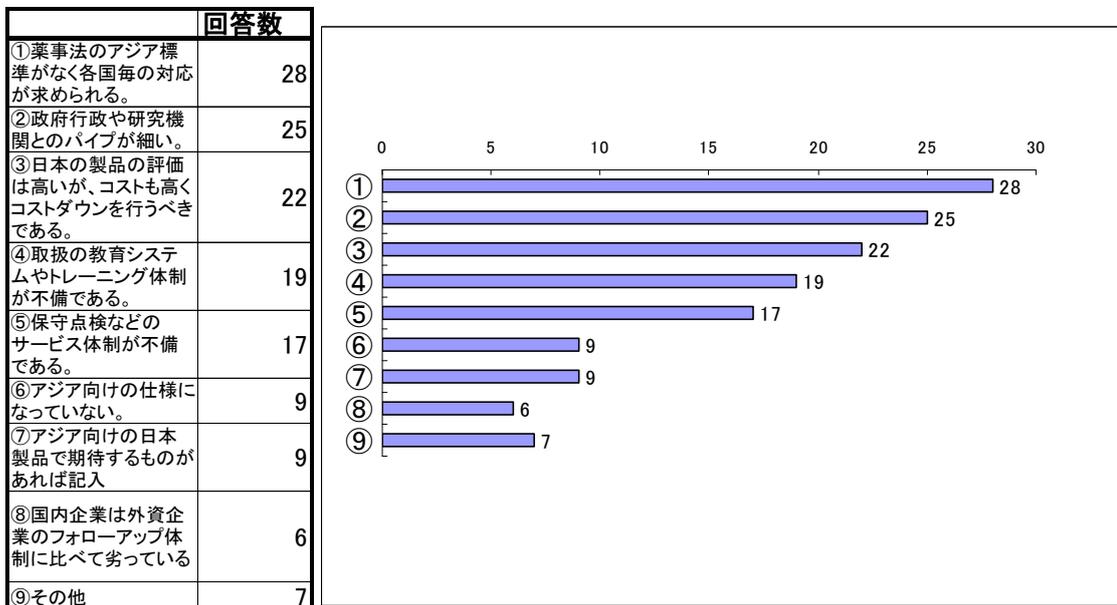
【回答59学会、144件】



8. 我が国の医療機器をアジアに展開推進する上での課題について（複数回答）

規制（薬事法）のアジア標準がなく各国毎の対応が求められる、政府行政や研究機関とのパイプが細い、日本製品の評価は高いがコストも高くコストダウンを行うべき、取扱いの教育システムやトレーニング体制が不備等多くの課題が挙げられている。

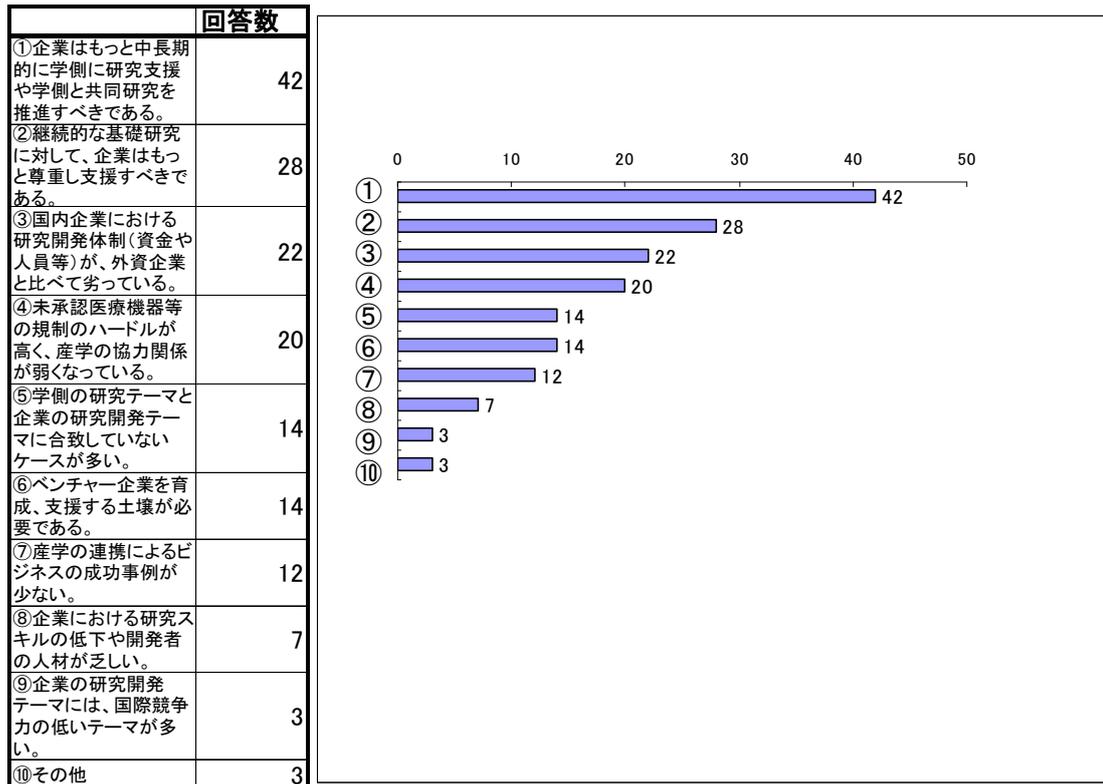
【回答53学会、142件】



9. 医療機器に関する研究開発にあたって、産業界に対する要望や意見について
アジアに限定せずに回答（複数回答）

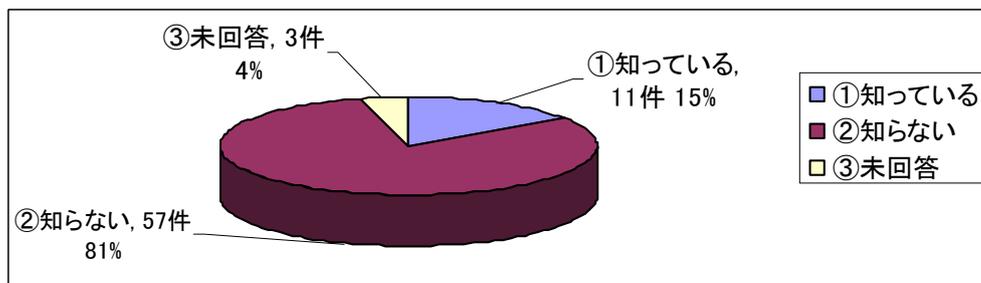
中長期的に学側への研究支援や共同研究の推進、基礎研究に対する尊重と継続的な支援、外資に負けない研究開発体制（資金や人材）、未承認医療機器の規制緩和、相互の研究テーマの一致整合、ベンチャー育成、産学連携の成功事例の蓄積、人材育成、国際競争力のある研究開発等多くの要望や意見が挙げられている。

【回答55学会、165件】



10. 日本医療機器産業連合会（医機連）やMETISについて

知らないと回答した学会が80%もあり、今後のプレゼンスの向上活動が課題である。



以上